令和５年度入学式（４月３日）　入学式　校長告辞

今日という日を迎え、皆さんはきっと喜びを噛みしめておられることと思います。青春時代の最も貴重な時期をここ小山高専で過ごすと決心された皆さん、その決断とこれまでの皆さんの努力に対して敬意を表するとともに、本学の教職員を代表して、お祝いの気持ちをお伝えしたいと思います。ご入学、誠におめでとうございます。また、この日を心待ちにしてこられたご家族の皆様にも心よりお喜びを申し上げます。

現代社会は急激に変化しており、「10年ひと昔」というより「5年ひと昔」という方が実感に近いかと思います。特に技術の進歩には目を見張るものがあり、皆さんが本校を卒業あるいは修了される頃には、想像できないほどに社会が変化しているかもしれません。この数年間、人々の生活もそれまでの日常から大きく変化した場面もあります。私たちは、世界中をつなぐ通信手段を使い、オンライン授業が充実した反面、リアルなキャンパスの価値をあらためて実感させられました。このような状況の下で新しい学生生活を始めることに、不安を抱くのは不思議ではありません。しかし小山高専を選択された皆さんは技術者になるという目標を持っておられます。目標なく道を歩いていて、たまたま富士山頂にたどり着く人はいません。山頂を目指して歩む人のみがそこにたどり着くわけです。入試突破の栄光と喜びに胡坐をかかず、今日から本校においてその頂きを目指して一歩一歩歩みを進めてください。小山高専はこれからの社会で必要とされるクリエーティブな技術者の育成を行う国立の高等教育機関です。これから皆さんには、技術者としての知識や技能を身に着け、卒業・修了時には実社会で活躍できる人才となっているよう励んでもらうことになります。皆さんは目標を持って真摯に学んでゆけば、本校の厳しい道を完走し、今目指している人才へと大きく成長し、本校を巣立って行くはずです。その実現のために本校のカリキュラムが構成され、プロフェッショナルな教員の指導と支援があります。

大きな変革の時代にあっても、日本が教育に掛ける予算は残念ながらこれまで先進国中最低レベルでした。そのためか、たとえばIT分野におけるスキルレベルは先進63か国中60位、また情報関係の技術者は80万人程度不足していると伝えられています。更に、若い技術者はこの20年間で100万人以上減少し、現在主力の高齢化も進んでいます。必要な人才を他国から集めるだけではなく、技術者の自給率を保つために、自国での教育体制の強化が大切です。政府もこれらの問題に危機感を持って対応する姿勢へと転じ、現在は高専の高度化や機能強化が始まっています。近い将来、新たな事業が生み出され、社会で求められる人才が多様化し、それらに合わせて皆さんの卒業後のキャリア選択肢も増えると予想されます。技術を活かして起業することも含め、皆さんはまさにその時、適切に対応できる能力や技術を身に着けていなければなりません。目指すべき技術者の育成には、知識や技能だけでなく、「新しい解決法を発想する力」、「課題に粘り強く取り組む力」、「他者と協力して物事を実現する力」を含む人間力を育てることも大切です。多様な人才がいることでその組織は多くの可能性を持つことができます。皆さんはそれぞれに多彩な才能を持つ、我が国にとって大変貴重な人才です。これから学びはじめる高専という場所は、技術者を目指す多様な可能性を持った人間が集い、共に育っていく場です。その過程で仲間の多様性を尊重しあうことは、本校の教育理念である「技術者である前に人間であれ」という言葉にも通じます。この自由な学びの場で、勉強だけでなく、沢山の人々に出会い、様々な事柄に挑戦してください。時に苦悩することもあるでしょう。しかし青春の一コマに悔いを残すことがないよう挑戦し続けてください。その経験はきっと皆さんの人生を豊かにしてくれるはずです。「何が起こるか予測できない社会だからこそ何にでも挑戦しよう」とはアマゾン創業者ジェフ・ベゾスの言葉です。困難と感じる状況を経験することもあるでしょう。しかし、その先に更に待っている輝かしい未来に向かって、今日から仲間と一緒に歩んでいきましょう。

皆さん、ようこそ小山高専へ。

令和５年４月３日

国立高等専門学校機構

小山工業高等専門学校

校長 堀　憲之